

第 2 回 二宮町地域公共交通活性化協議会

資料 1 : 公共交通 (鉄道・バス・タクシー等) に関する町民アンケート結果

平成 24 年 1 月 18 日

1 実施概要

アンケートは、二宮町にお住まいの 1,000 人の方（無作為抽出）を対象に郵送配布、郵送回収にて実施した。

単身世帯の対象者を除いて、アンケート票を 3 票同封し、ご家族の方の協力もお願いした。

その結果回収率は 4 割以上、905 票の回答を得られた。

表 1-1 アンケートの実施概要

項目	内容
実施時期	平成 23 年 9 月
実施方法	郵送配布、郵送回収
対象者	二宮町民
配布数	1,000
回収数	448 (905 票)
回収率	44.8%

2 回答者の属性

(1) 年齢階層

概ね各年齢階層から回答を得ている。

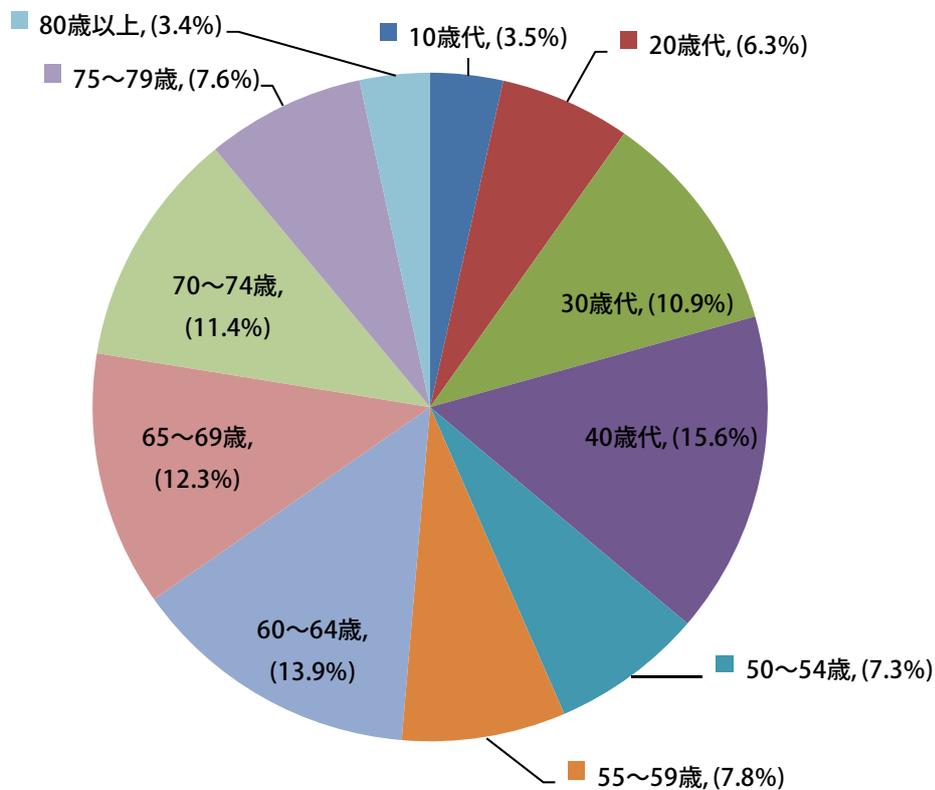
特に、60歳代（26.2%）の方々からの回答が多い。

表 2-1 年齢階層別回答者数

年齢階層	回答者数 (構成比)
10歳代	31 (3.5%)
20歳代	56 (6.3%)
30歳代	97 (10.9%)
40歳代	139 (15.6%)
50～54歳	65 (7.3%)
55～59歳	70 (7.8%)
60～64歳	124 (13.9%)
65～69歳	110 (12.3%)
70～74歳	102 (11.4%)
75～79歳	68 (7.6%)
80歳以上	30 (3.4%)
計	892 (100%)

単位：人

有効回答数 892、不明・未回答数 13



(2) 居住地域

町の人口構成比と同様の比率で概ね各地から回答を得ている。

特に回答者数が多いのは山西、二宮となっている。また、富士見が丘、山西、百合が丘では、町の人口構成比よりやや高い回答比率となっており、公共交通への関心の高さがうかがえる。

表 2-2 居住地区別回答者数

居住地区（字別）	回答者数	町の人口構成	
		構成比	人口総数
一色	15 (1.8%)	3.0%	886
川勾	21 (2.5%)	2.2%	642
中里	53 (6.3%)	6.5%	1,920
中里二丁目	18 (2.1%)	4.5%	1,337
二宮	205 (24.4%)	27.7%	8,165
富士見が丘一丁目	35 (4.2%)	3.9%	1,163
富士見が丘二丁目	40 (4.8%)	4.7%	1,384
富士見が丘三丁目	34 (4.0%)	2.5%	724
富士見が丘(丁目不明)	6 (0.7%)		
山西	216 (25.7%)	21.6%	6355
百合が丘一丁目	41 (4.9%)	4.6%	1350
百合が丘二丁目	49 (5.8%)	4.3%	1278
百合が丘三丁目	38 (4.5%)	4.8%	1409
百合が丘（丁目不明）	1 (0.1%)		
松根	5 (0.6%)	1.6%	479
緑が丘一丁目	0 (0.0%)	0.7%	208
緑が丘二丁目	20 (2.4%)	2.7%	807
緑が丘三丁目	43 (5.1%)	4.5%	1337
計	840 (100%)	100.0%	29,444

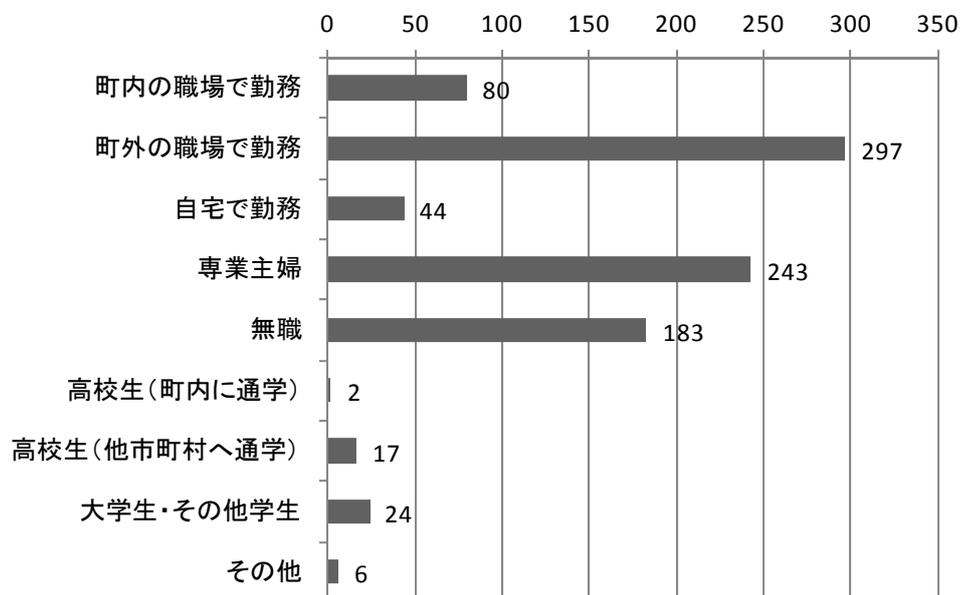
単位：人

※町の人口構成は、二宮町人口統計表（字別）平成 23 年 11 月 1 日現在

有効回答数 840、不明・未回答数 65

(3) 職業

回答者の職業としては、町外の職場に勤務している会社員等が最も多く、次いで専業主婦、無職の順となっている。

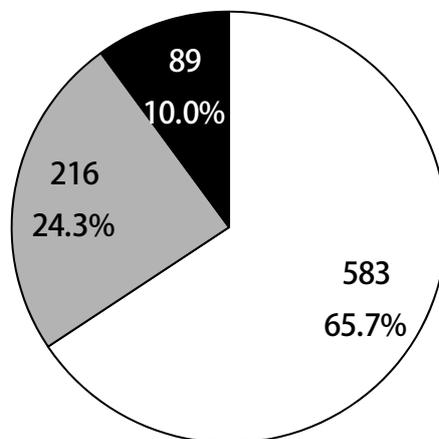


有効回答数 896、不明・未回答数 9

(4) 普段自由に使える自動車の有無

回答者の65%以上の方が自由に使える自動車を持っている。

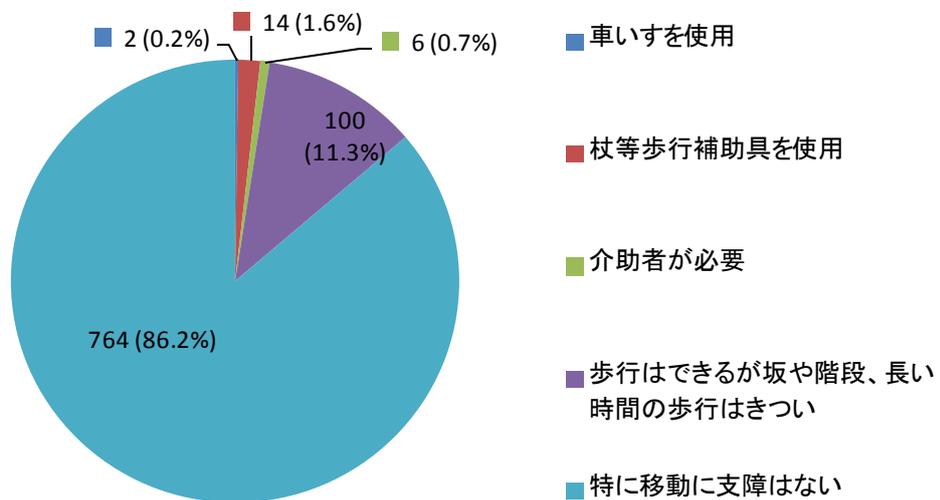
- 自由に使える自動車がある
- 自動車免許をもっていない
- 自動車免許はあるが自由に使える自動車がない



有効回答数 888、不明・未回答数 17

(5) 移動の状況

回答者のほとんどが「特に移動に支障はない」であるが、約 11%の方が「坂や階段、長い時間の歩行はきつい」と感じている。

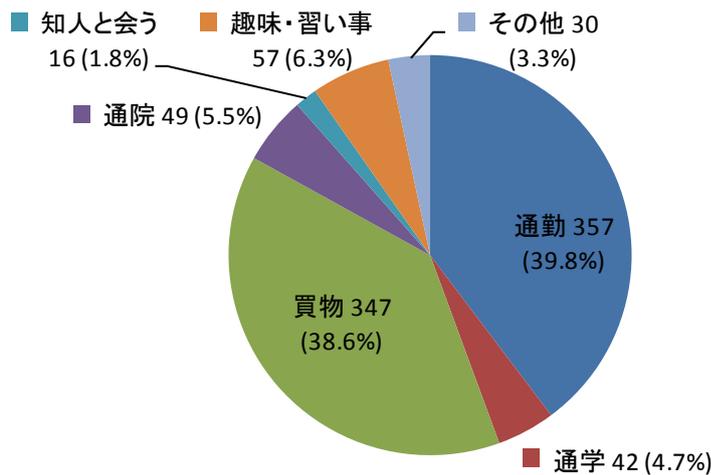


有効回答数 886、不明・未回答数 19

3 日常の外出の状況

(1) 外出の目的

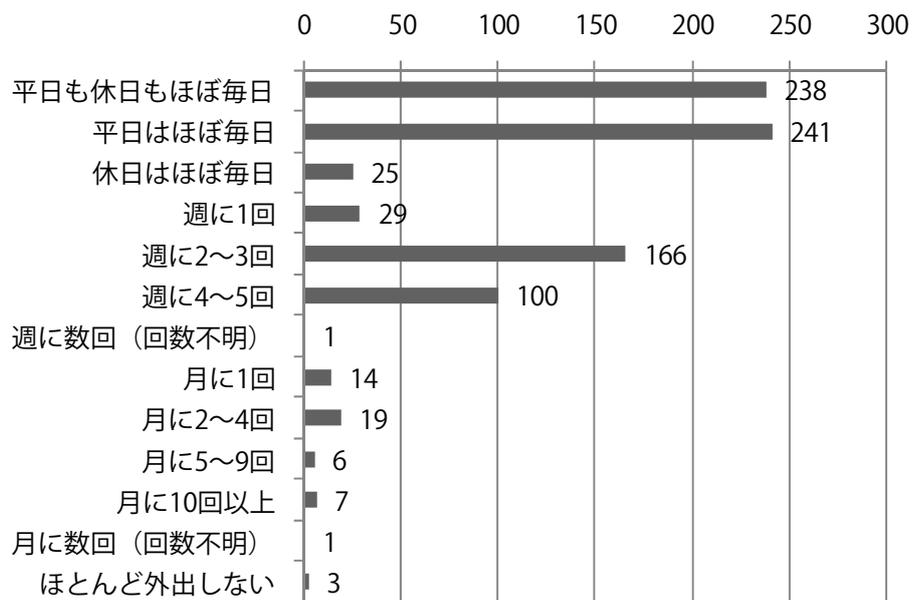
通勤・通学が目的とした外出が多く約 45%となっている。次いで買物の約 39%となっている。



有効回答数 898、不明・未回答数 7

(2) 外出の頻度

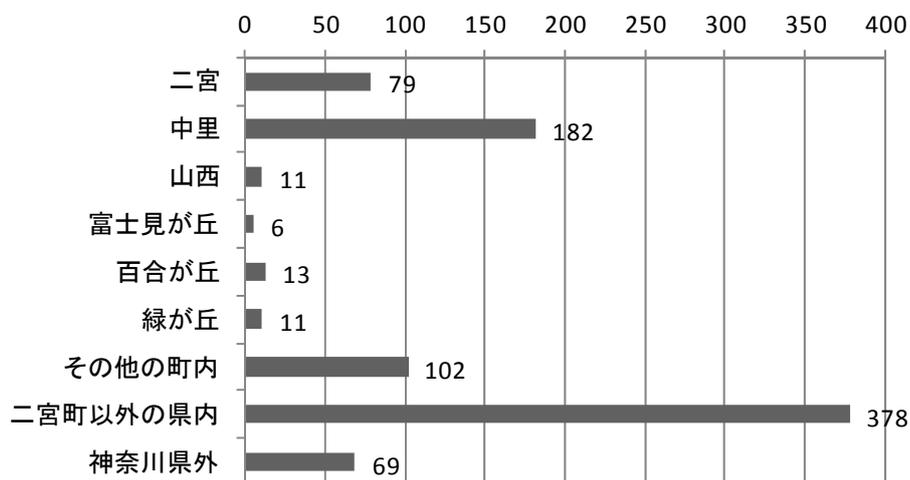
約半数以上の方が「平日も休日もほぼ毎日」または「平日はほぼ毎日」外出していると回答している。また、回答者全体の9割以上が週1回は外出していると回答している。



有効回答数 850、不明・未回答数 55

(3) 外出先

外出先としては、町外へ外出が多く、町内の移動先としては商店街や商業施設等がある二宮、中里への外出が多い。二宮町以外の県内では平塚市、小田原市が多く、次いで横浜市、秦野市となっている。

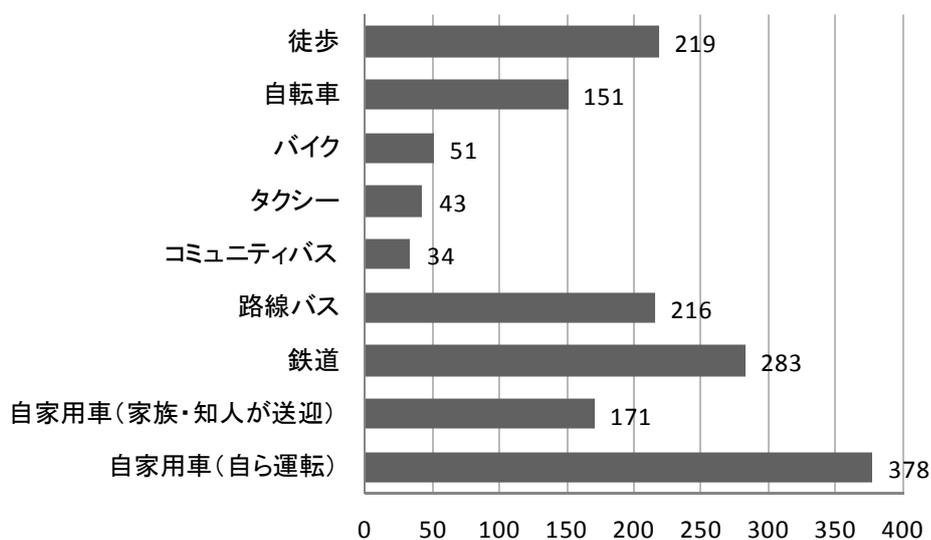


有効回答数 851、不明・未回答数 54

(4) 主な利用交通手段

外出する際の主な利用交通手段としては、自家用車（自ら運転）が最も多く、有効回答数の約44%となる378人が選択している。自家用車（家族・知人が送迎）も含めると、実に有効回答数の6割以上が自家用車を利用していることになる。

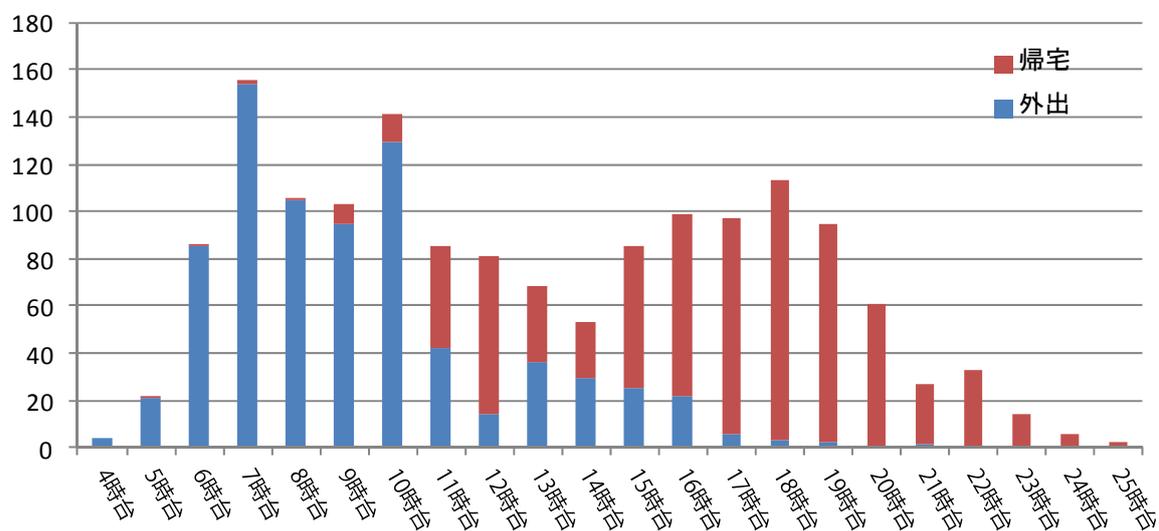
※複数回答有り（回答総数 1,546）



有効回答数 868、不明・未回答数 37

(5) 外出・帰宅時刻

外出は7時台と10時台が特に多くなっている。一方で、帰宅が多い時間帯は16～19時台でやや分散している。

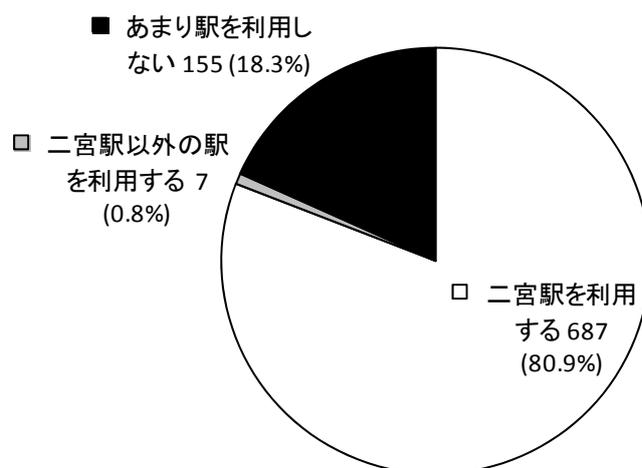


有効回答数 868、不明・未回答数 37

4 鉄道やバスの利用状況

(1) 駅の利用状況

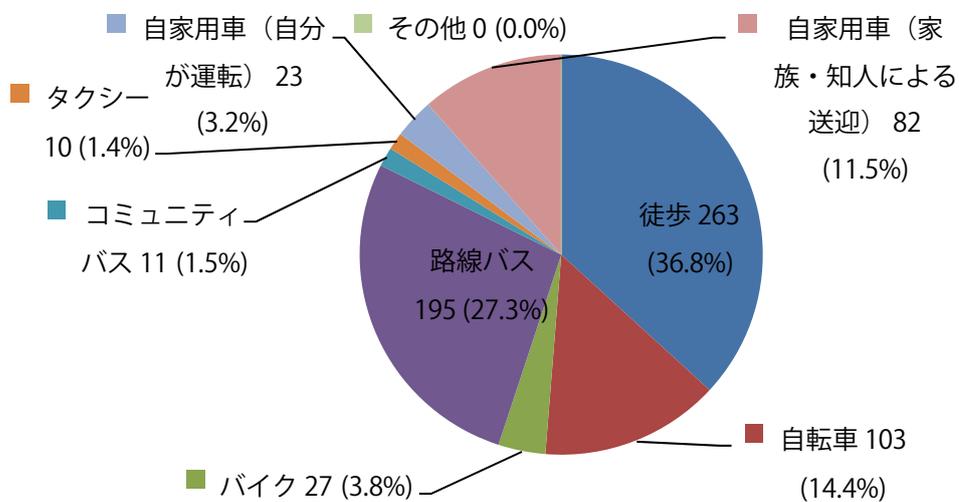
約8割の方は二宮駅を利用している。普段あまり駅を利用しない方は約18%となっている。二宮駅以外では国府津駅（3人）、秦野駅（3人）、小田原駅（1人）である。



有効回答数 849、不明・未回答数 56

(2) 駅までの利用交通手段

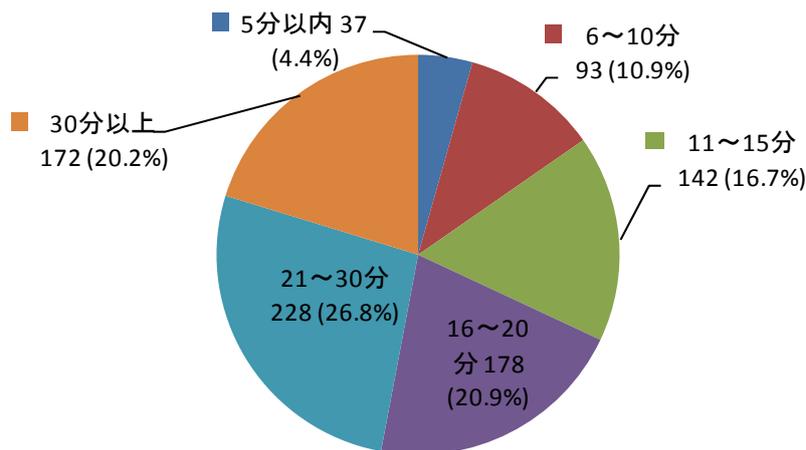
自宅から駅までの主な利用交通手段としては、徒歩（約37%）が最も多く、次いで路線バス（約27%）となっている。



有効回答数 714、不明・未回答数 191

(3) 自宅から駅までの徒歩時間

自宅から駅まで徒歩で歩く場合の所要時間を回答してもらったところ、概ね駅から徒歩圏と考えられる15分以内には約32%の方が居住している。一方で、30分以上と回答する方が約20%となっている。その中間である16~30分圏域に約半数の方が居住している。

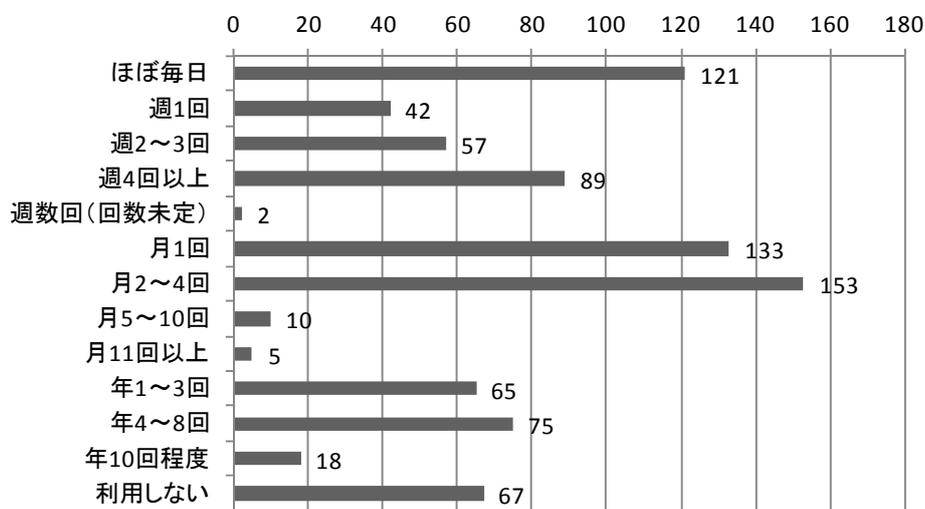


有効回答数 850、不明・未回答数 55

(4) 公共交通の利用頻度

① 鉄道

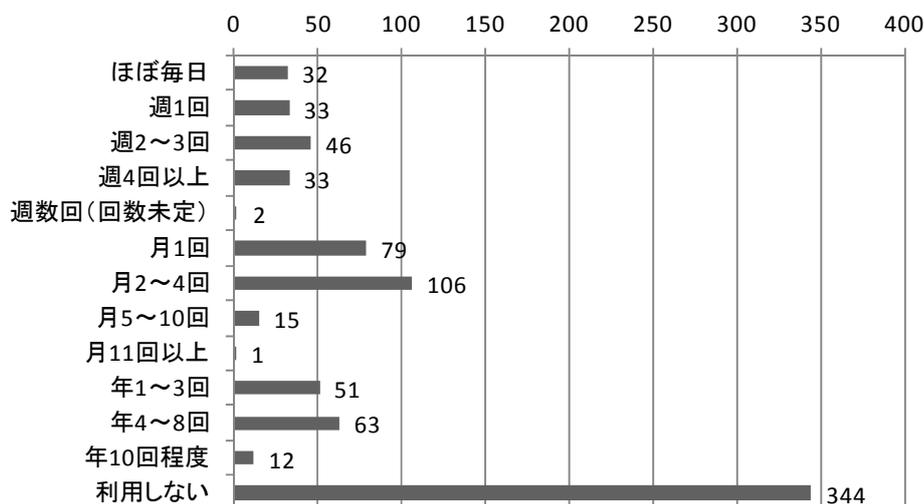
鉄道の利用は、月数回利用する方が最も多い。ただし、「ほぼ毎日」あるいは「週4回以上」利用している方も全体の1/4である。一方で、「利用しない」と回答した方は約8%となっている。



有効回答数 837、不明・未回答数 68

② 路線バス

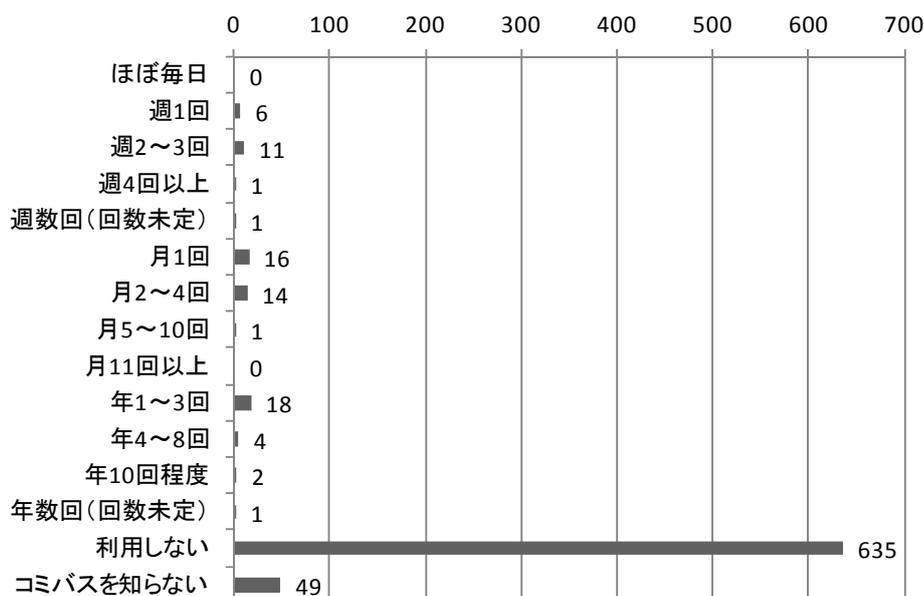
路線バスの利用も、月に数回利用する方が多いが、「利用しない」と回答した方が344人（約42%）と最も多い。日常的によく利用していると考えられる週に複数回利用している方は、全体の約14%である。



有効回答数 817、不明・未回答数 88

③ コミュニティバス

コミュニティバスは、ほとんどの方が「利用しない」と回答している。また、コミュニティバスを知らないと回答した方も49人（約7%）ほどいる。



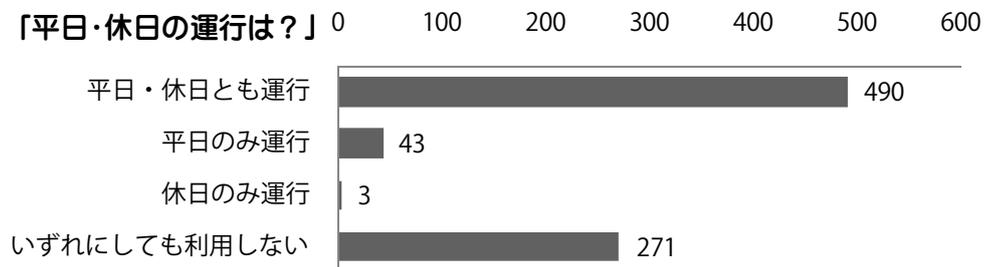
有効回答数 759、不明・未回答数 146

5 バスの利用条件

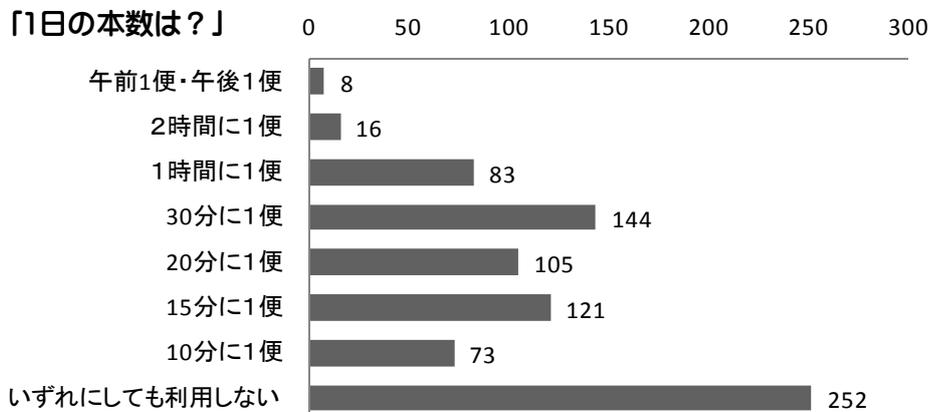
(1) 最低限必要な運行頻度

平日・休日ともに運行を望む方がほとんどである。また、運行頻度は「30分に1便」と回答した方が最も多く144人（約18%）となっている。次いで「15分に1便」「20分に1便」となっている。

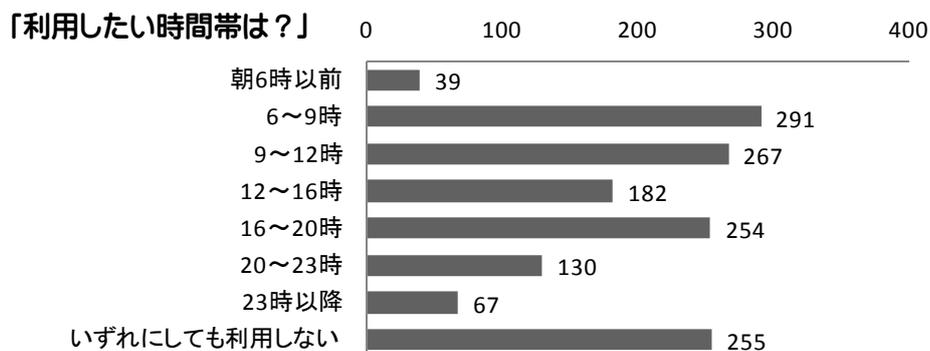
時間帯については、朝の通勤・通学時間帯である「6～9時」が最も多く、次いで外出時間で回答の多かった10時台を含む「9～12時」となっている。



有効回答数 807、不明・未回答数 98



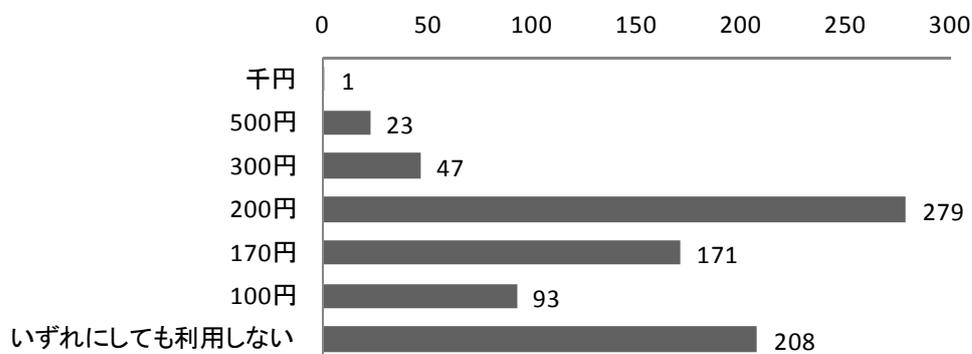
有効回答数 802、不明・未回答数 103



有効回答数 801、不明・未回答数 104

(2) 運賃の限度額

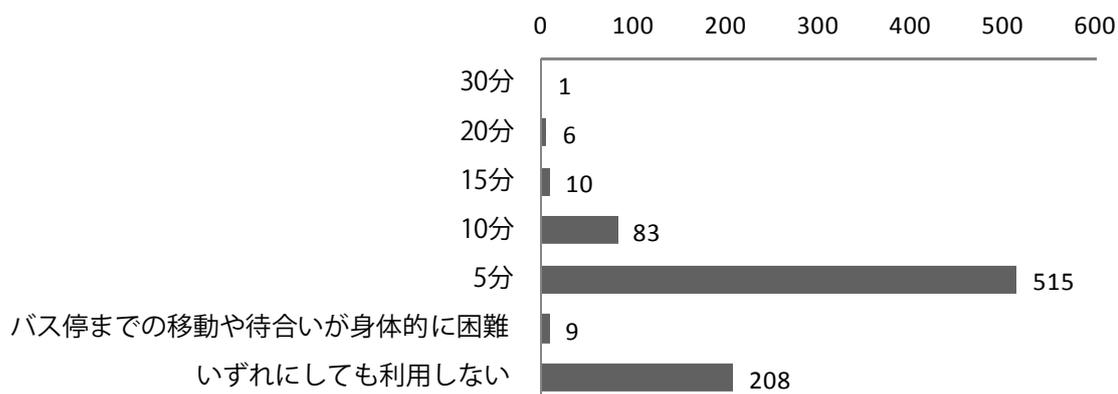
運賃の限度額としては、200円と考える方が最も多く279人（約1/3）となっている。また、路線バスの初乗り運賃と同額の170円と回答した方が次いで多い。



有効回答数 822、不明・未回答数 83

(3) バス停までの徒歩時間の限度

バス停までの徒歩時間の限度は、5分であると回答する方が圧倒的に多かった。また、バスを利用したくても「バス停までの移動や待合いが身体的に困難」と回答した方が9人いた。



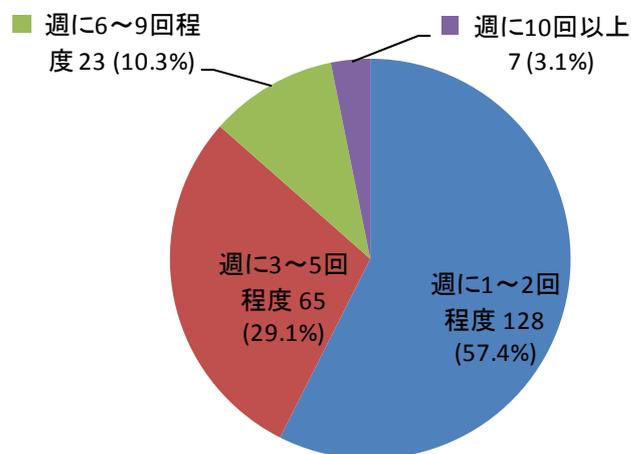
有効回答数 832、不明・未回答数 73

6 家族・知人を送迎することについて

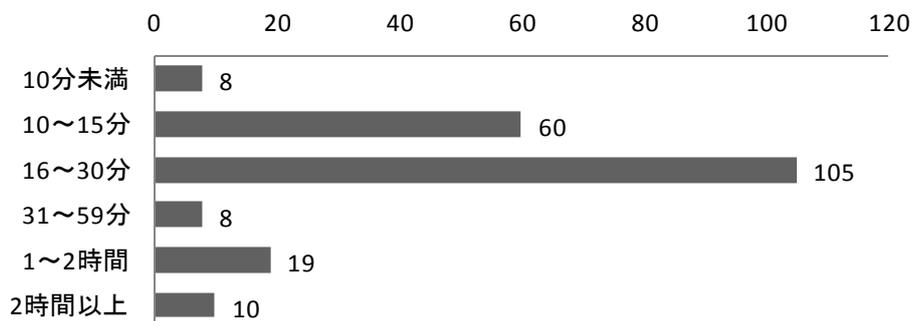
(1) 家族を送迎する頻度と所要時間

日常生活においてマイカーで家族や知人を送迎することが多いと回答した方が 235 人となっている。送迎の頻度については、「週に 1～2 回程度」が最も多く全体の 6 割近くを占めている。

1 回の送迎時間は、「16～30 分」が 105 人（約 47%）と最も多く、1 時間以上かけて送迎をしているという方も 29 人（約 12%）いる。



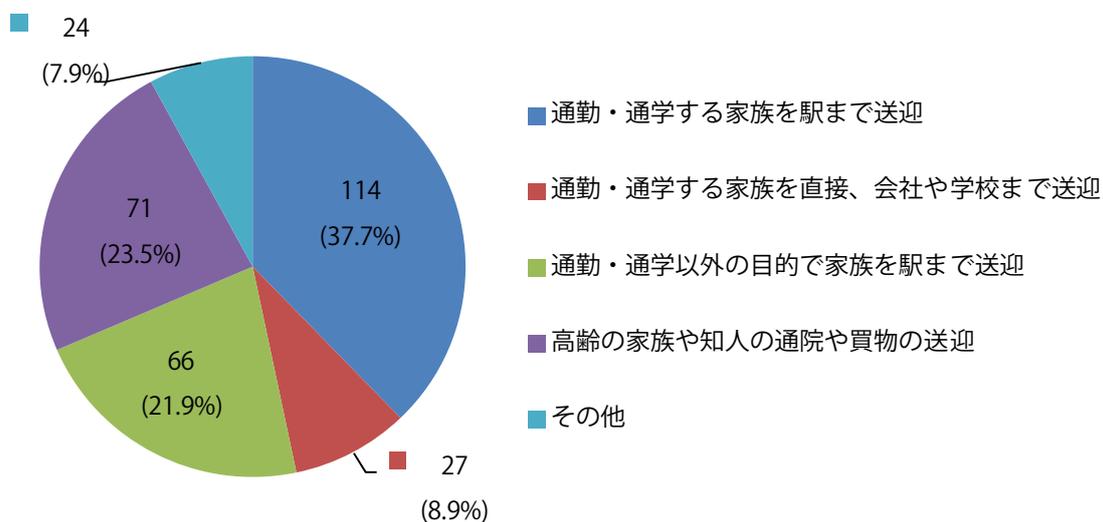
有効回答数 223、不明・未回答数 682



有効回答数 210、不明・未回答数 695

(2) 送迎の目的

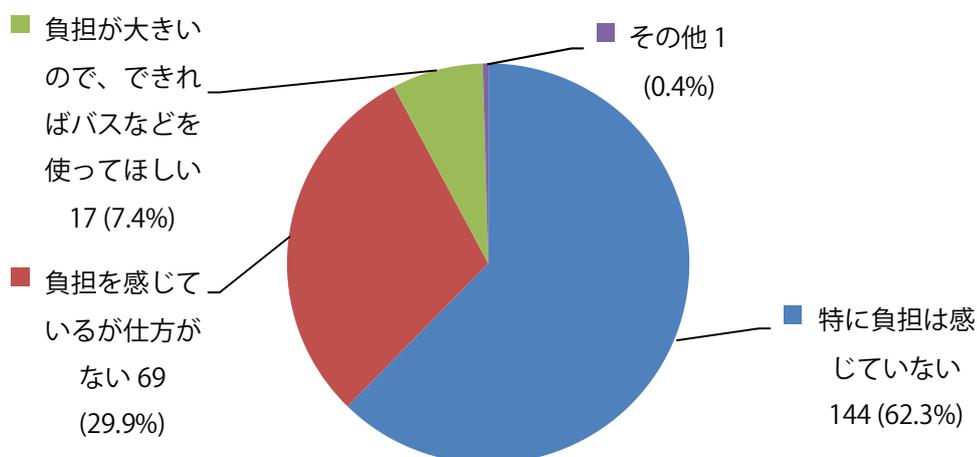
送迎の目的としては、「通勤・通学する家族を駅まで送迎」していると回答した方が最も多く、「通勤・通学以外の目的で家族を駅まで送迎」を含む駅まで家族を送迎している方が全体の約6割を占めている。



有効回答数 235、不明・未回答数 670

(3) 送迎することに対する意識

家族を送迎することに対しては、「特に負担は感じていない」と回答した方が最も多く144人（約62%）となっている。一方で、「負担が大きいので、できればバスなどを使ってほしい」と回答した方が17人（約7%）いる。



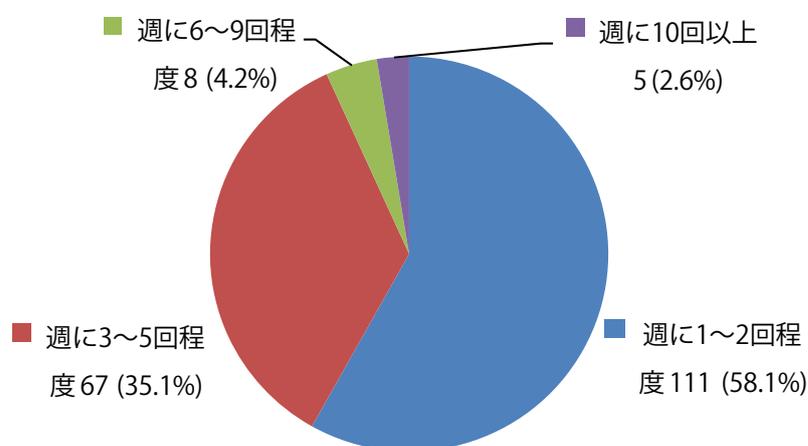
有効回答数 231、不明・未回答数 674

7 家族・知人に送迎してもらうことについて

日常生活において家族や知人のマイカーで送迎してもらうことが多いと回答した方が198人となっている。

(1) 送迎してもらう頻度

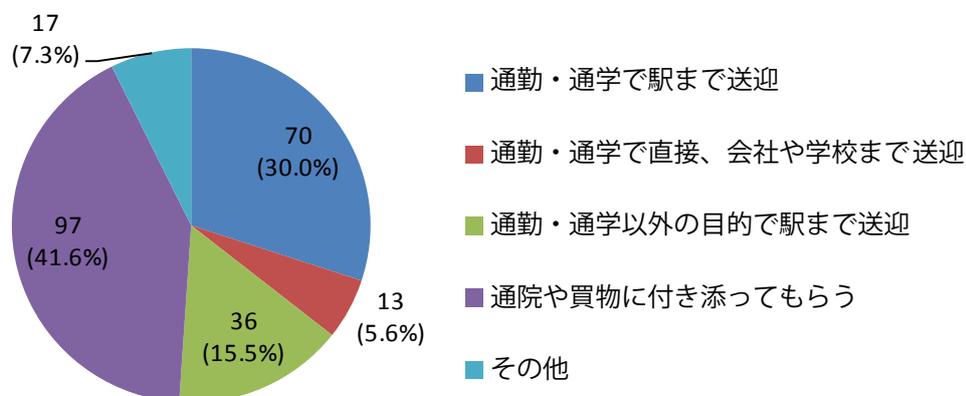
送迎の頻度については、「週に1～2回程度」が最も多く全体の6割近くを占めている。次いで「週に3～5回程度」も多く、週に1～2回程度と3～5回程度を合わせると全体の9割以上を占めている。



有効回答数 191、不明・未回答数 714

(2) 送迎目的

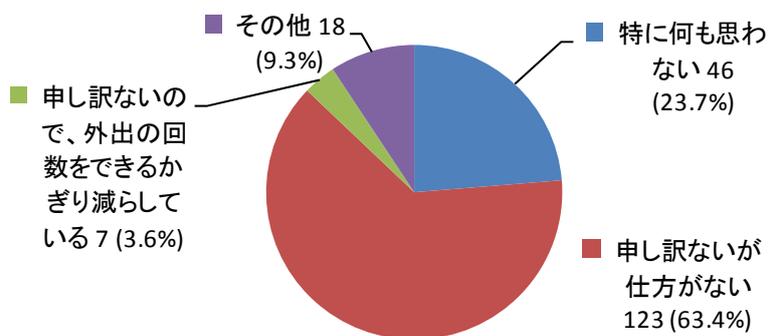
送迎目的は、通院や買物に付き添ってもらうが最も多くなっている。



有効回答数 198、不明・未回答数 707

(3) 送迎してもらうことに対する意識

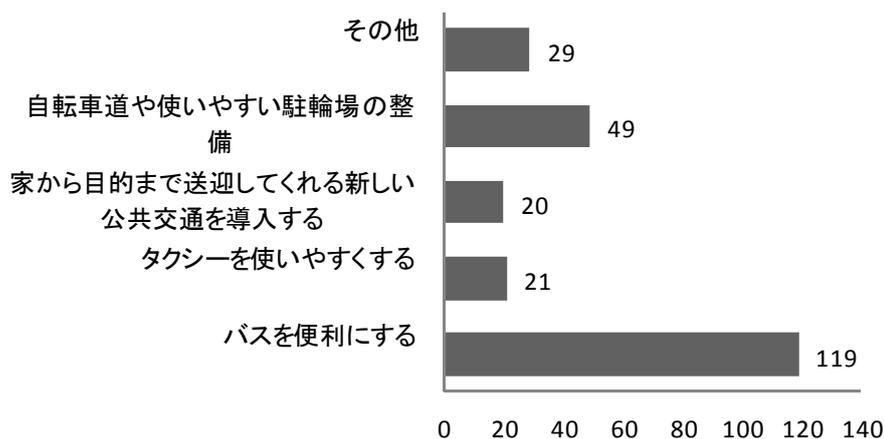
送迎してもらうことに対する意識は、「申し訳ないが仕方がない」と回答した方が最も多く全体の約 2/3 を占めている。また、「申し訳ないので外出の回数をできる限り減らしている」と回答した方が 7 人いる。



有効回答数 194、不明・未回答数 711

(4) 送迎を減らすための方策

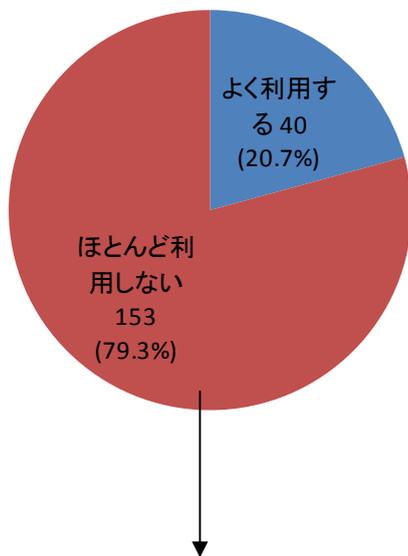
送迎を減らすための方策としては、「バスを便利にする」という回答が最も多く 119 人（約 2/3）となっている。



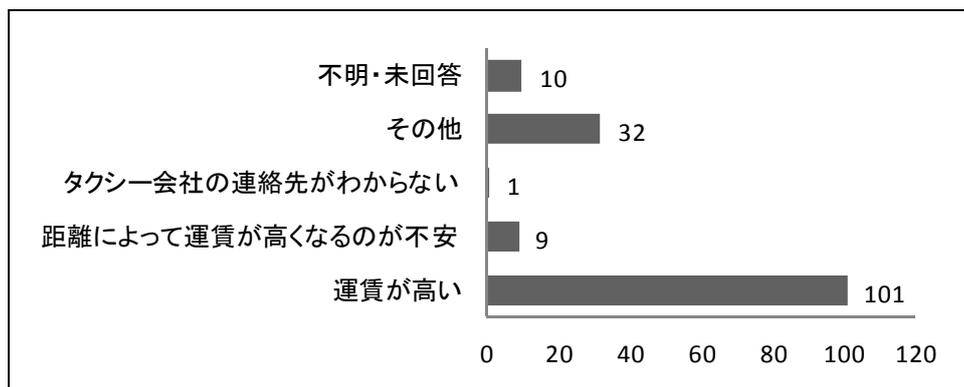
有効回答数 183、不明・未回答数 722

(5) タクシーの利用について

タクシーの利用については、「よく利用する」が約2割であり、ほとんど利用しない理由としては、「運賃が高い」が全体の約2/3を占めている。



有効回答数 183、不明・未回答数 722

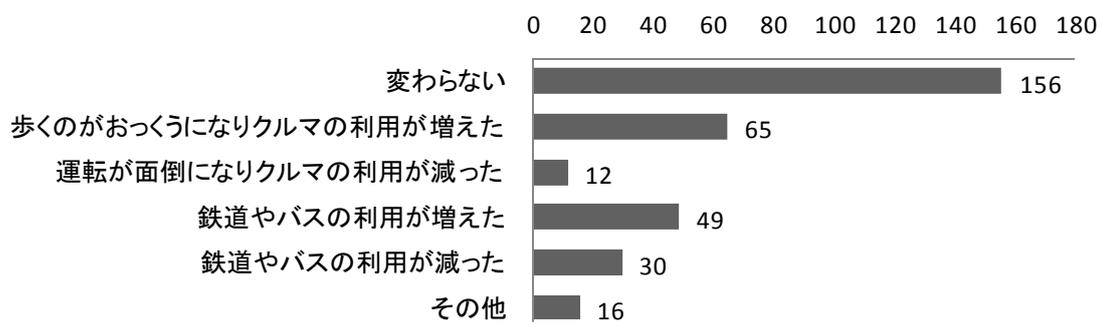


8 高齢者の移動について

(1) 日常の移動手段の変化（65歳以上の方を対象）

若い頃と現在の日常の移動手段については、対象者の半数は「変わらない」と回答している。また、クルマの利用が「減った」よりも「増えた」という方の方が多く、鉄道やバスの利用についても「減った」よりは「増えた」の方多かった。

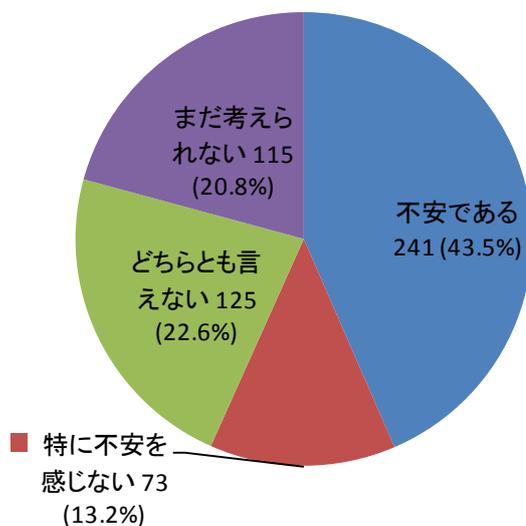
※複数回答有り（回答総数 328）



対象者 310、有効回答数 287、不明・未回答数 23

(2) 将来、高齢者になったときの日常生活の移動について（65歳未満の方を対象）

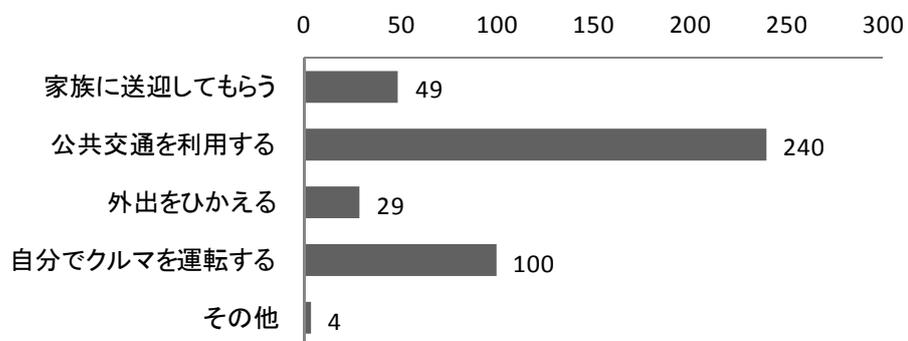
将来、高齢者になったときの日常生活の移動について不安を感じている方が4割以上いる。



対象者 582、有効回答数 554、不明・未回答数 28

(3) 歳をとり、身体が衰えたときの移動手段 (65歳未満でクルマを運転する方を対象)

歳をとり、身体が衰えたときの移動手段は、「公共交通を利用する」と回答した方が 240 人 (約 41%) となっている。一方で、「自分でクルマを運転する」または「家族に送迎してもらおう」と回答した方は、合わせて 149 人 (約 26%) であった。

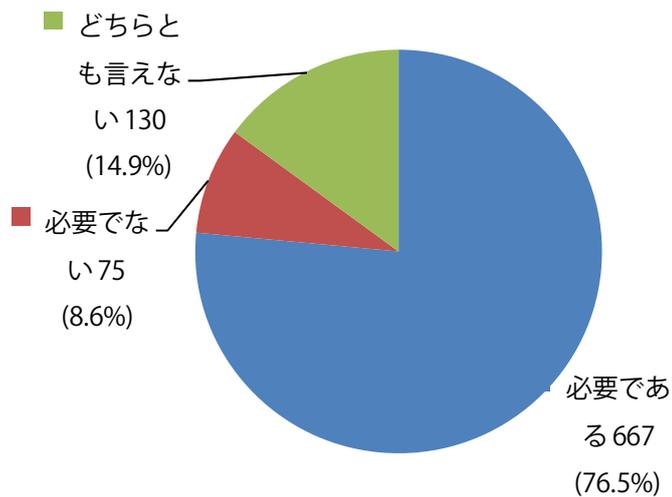


対象者 582、有効回答数 422、不明・未回答数 160

9 二宮町の公共交通について

(1) 現状での公共交通の必要性

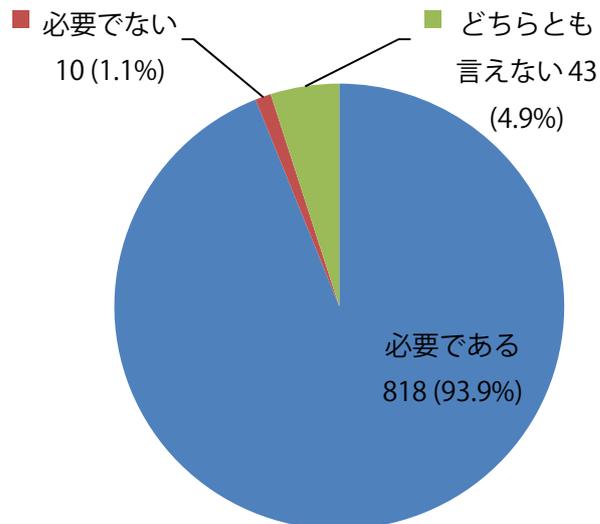
現状で、公共交通は「必要である」と回答した方は全体の約 3/4 であり、「必要でない」と回答した方は 75 人（約 9%）となっている。



有効回答数 872、不明・未回答数 33

(2) 将来、高齢化が進展したときの公共交通の必要性

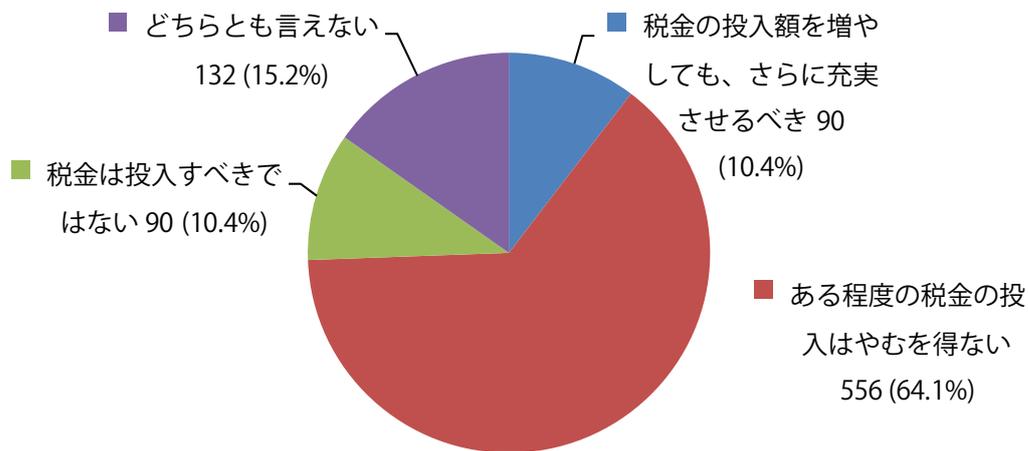
将来、高齢化が進展したときの公共交通の必要性では、現状よりさらに多い9割以上の方が「必要であると」と回答している。「必要でない」と回答した方も大幅に減っており 10 人（約 1%）となっている。



有効回答数 871、不明・未回答数 34

(3) 町の負担（税金の投入）について

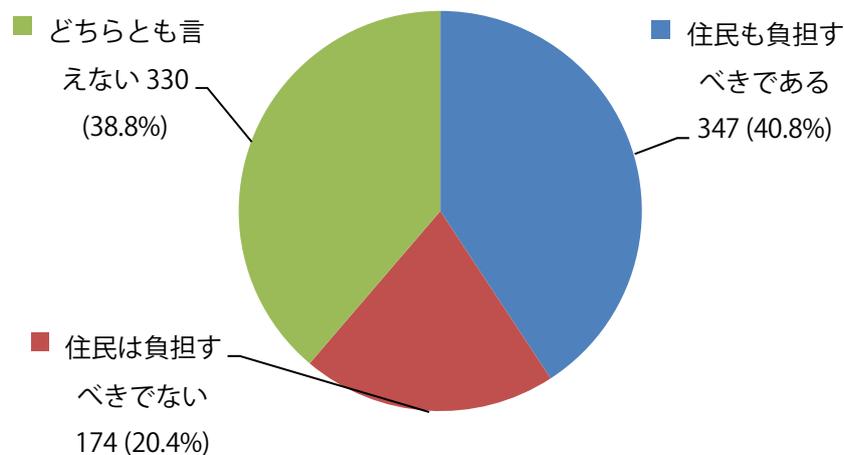
公共交通を維持するために、ある程度の税金の投入はやむを得ないと考える人が全体の約 2/3 を占めている。また、「税金の投入額を増やしても、さらに充実させるべき」と回答した方も 90 人（約 10%）いる。



有効回答数 868、不明・未回答数 37

(4) 地域住民の負担について

住民も負担すべきであると回答した方が約 4 割となっている。一方で、「住民は負担すべきでない」と回答した方が約 2 割いる。



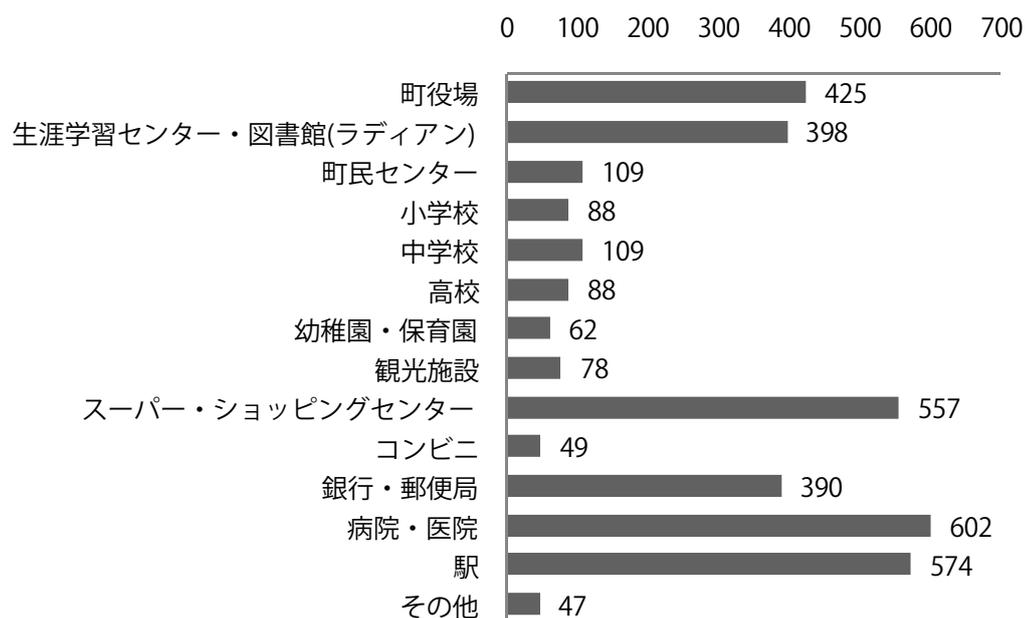
有効回答数 851、不明・未回答数 54

10 バスを便利するための方策

(1) バス停を設置すべき場所

バス停を設置すべき場所としては、病院・医院、駅、スーパー・ショッピングセンターが多く、約2/3以上の方が設置すべきと考えている。次いで現在バス停の無い、町役場についても約半数の方が設置すべきと考えている。

※複数回答有り（回答総数 3,576）

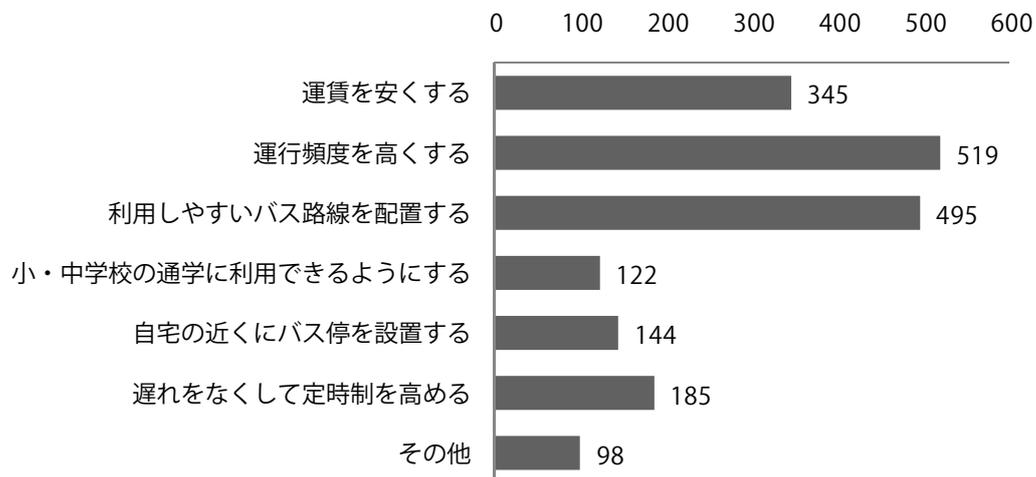


有効回答数 851、不明・未回答数 54

(2) 利用を多くするために必要なサービス

利用を多くするために必要なサービスとしては、「運行頻度を高くする」が最も多く、次いで「利用しやすいバス路線を配置する」、「運賃を安くする」となっている。

※複数回答有り（回答総数 1,908）



有効回答数 856、不明・未回答数 79